

憲法が輝く県政へ ⑫

子どものいのちを守る県政に！

新日本婦人の会兵庫県本部事務局長 桜井文子

広がる女性と子どもの貧困

「構造改革」による貧困と格差がひろがり、女性の貧困「子どもの貧困」が深刻な社会問題となつて、国連子どもの権利委員会、女性差別撤廃委員会からも厳しい指摘がされています。

子どもものいのちを守る県政に！

十五位中ワースト九位と、先進国の中では、際立った高さです。年収二百万円以下・ワキングプアが一千百万人、そのうち女性が七割をしめています。全年齢の虐待事件の背景には、



必ず生活困難が見えかくれして、政治の貧困、無策に強い怒りを感じます。子どもの医療費無料が各地で拡充

「安心して子育てしたい！」「お金の心配なしに、いつでもどこでも病院にかかりたい」と子育て世代にとって、子どもの医療費無料化は切実な要求です。

「世帯合算」で二万人切り捨て

ママたちが直接訴え、政治かえる力実感

「窓口一回八百円。さらに院外薬局でまた八百円」「アトピーや、アレルギー、複数の病院通いも大変」「保育料、医療費や家計を考えると、どうしても二人目は産めない」

子どもものいのちは、一人ひとり、かけがえのないものであり、自治体は憲法に保障された生存権、平和に生きる権利、住民のいのちに責任を持

つ役割を果たしてほしい、子どものいのちを最優先する県政であってほしい！と切実に願っています。

来年の知事選挙では、憲法が輝き、生きる兵庫県政の実現に、女性たちがしっかりと手をつなぎ、がんばりましょう。



「大型公共事業にお金をかけるのでなく、子どもの医療費を無料にしてほしい！」と二〇〇一年から十二年間、十回もの対県交渉を続けてきました。赤ちゃんを抱きながら、子育て世代たちが直接県に声を届けるとともに、地域と一緒に、請願や「子ども署名」にとりくんできました。

この間、全国では運動と市町村の努力もあって、中学校卒業まで子どもの医療費無料化が広がっており、高三まで無料とする自治体も次々と出ています。県内では、二十五市町で入院費が中学三年生まで無料に、通院費は小学六年生まで助成が拡充されました。西宮、小野、相生などでは、入院・通院とも中三まで無料化が実現しています。神戸市では、ママたちが国会要請や署名・請願にとりくみ、ついに三歳児未満まで無料化（今年十二月から実施）しました。

「世帯合算」で二万人切り捨て

しかし、兵庫県は今年七月から、「第二次県行革プラン」で先送りしていた「子ども・障害者医療費助成制度」を改悪、所得制限に「世帯合算」を導入し、約二万人が削減されています。

「世帯合算」導入は全国でも山口県と兵庫県の二県だけです。県内すべての中学三年生までの医療費無料化には、県予算のわずか約0・32%で実現できるのに、「ここまでするか！」「兵庫県は本当に子育てを応援する気があるの？」と、多くの女性たちの強い怒りとなつています。

ママたちが直接訴え、政治かえる力実感

今年六月に行った県庁プチデモ・対県交渉には、「兵庫県内どこに住んでも中学校三年生まで無料にしてほしい」「世帯合算

人分を手渡しました。参加したママたちからは「直接声を出すことが大事」「こうして、私たちの願いを実現させていくんだですね」の感想が寄せられ、暮らしと政治が結びついていること、私たちの運動が政治を変える力になることが、若い世代たちにも、しっかりと見えてきています。

連帯・行動して変えよう

いま、3・11以降、全国が「いのちを守る社会」の実現に、真剣に考え、連帯し、行動しています。県民の暮らしや願いをかえりみず、原発再稼働容認に加担し、大企業優先路線と福祉・教育を削減する井戸県政に、未来の子どもたちを守ることはできません。